

神社でときどき見かける船の描かれた絵馬。宮司さんによると、「ふなえま」という大事な絵馬のようです。色鮮やかに描かれたその船絵馬の、どこことなく懐かしく不思議な印象に心惹かれた当グループでは、船絵馬について調査を始めました。

絵馬とは

正月や受験期になると、神社などで板に願いを込めて絵や文字を書いてぶら下げるといふ風習があり、私たちはその板を絵馬と呼んでいます。辞書によると「祈願や報謝のために、社寺に奉納する絵の額（デジタル大辞泉より）」とあり、生きた馬の代わりに絵に描いて奉納したのが始まりのようです。

船絵馬とは

絵馬の中でも特に「船絵馬」（ふなえま）と呼ばれるのは、船の絵が描かれた絵馬のことです。

船の航海安全を祈願し、船主・船頭・水主・家族などが社寺に奉納する搭乗船を描いた絵馬で、江戸時代から明治時代、盛んに行われました（精選版日本国語大辞典より）。

調査対象決定の経緯

船絵馬の中には、北前船で運ばれた経緯があるものもあることから、最終的には町と北前船についての調査をすることとし、その繋がりの中で今回は船絵馬を取り上げて調査することとしました。

北前船とは

江戸時代の中頃から明治期にかけて、大量の荷物を積んで日本海を往来していた廻船のこと。（日本遺産 北前船公式サイトより）

私たちが考える // 船絵馬の特徴

■ 船絵馬の共通点

これまでに見た船絵馬を見て気付いたことをまとめると、以下のような共通点が浮かび上がってきました。

船(北前船)が(一隻)描かれている

朝日が描かれている

海の青が鮮やかで
独特な色をしている

船の形が似ている
(西洋型帆船もしくは蒸気船)

船の名前が描かれている

人(乗組員)が描かれている



■ その他気づいたこと、考察

- ・船絵馬によって、帆の線の数や描かれた人の数が異なる。何か意味を持っているのではないか。
- ・屋号ののぼりが描かれた船絵馬も存在することから、安全祈願のために、自分の船と分かるようにしたのではないか。また、屋号が描かれるのは寿都町特有の特徴ではないか。
- ・当時は船絵馬を奉納したが、現在は船の模型や船の写真などを奉納する風習がある。これは、形を変えながらも船に模したものを奉納することで安全祈願をしているのではないか。

■ 調査した船絵馬の概要



-作成：明治16年8月15日
-寸法：26.5×38.5cm
-差出：願主 佐藤友太郎
-収蔵：結域内（現鮫取潤）
稲荷神社



-作成：明治20年第12月日
-寸法：35.5×47.5cm
-差出：加藤石松
-収蔵：結域内（現鮫取潤）
稲荷神社

= 編集後記 =

今回の調査では、まだまだ調べきれっていない船絵馬の魅力が垣間見えました。引き続き調査を進めながら、寿都神社の船絵馬を調査したいと思います。また、神社に向かう道中にある笏谷石。これもどうやら北前船に関連しているようです。次回の調査テーマとなることを見据えつつ、船絵馬やその他寿都町の歴史文化に関する皆さんからの情報もお待ちしております。

船絵馬
に関する
情報
求ム!